本レポートは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。

国連気候変動枠組条約 COP26 サイドイベント傍聴レポート
炭素市場は途上国に利益をもたらすことができるか?
Can carbon markets benefit developing countries?

（一社）海外環境協力センター（OECC）

- タイトル: Can carbon markets benefit developing countries?
- 日時: 2021 年 11 月 9 日（火）16:45–18:00（GMT）, 11 月 10 日（水）1:45-3:00（JST）
- 場所: COP26, Lomond Auditorium (144 pax)（ハイブリッド開催）
- 主催: Carbon Market Watch (CMW), German NGO Forum on Environment, Janvikas
- スピーカー: Robi Redda (Director, SouthSouthNorth), Kishan Kumarsingh (Head of the Multilateral Environmental Agreements Units, Trinidad and Tobago) (TBC), Mahesh Pandya (Director, Paryavaran Mitra), Eftimiya Salo (Sustainability Specialist, Compensate). モデレーター: Gilles Dufrasne (Carbon Market Watch)
- 参加者数: 不明（YouTube 視聴者　JST 01:48＝16 人、02:33＝27 人）
- 概要: 後発開発途上国は、UNFCCC の CDM からほとんど恩恵を受けなかった。このサイドイベントでは、2021 年 10 月に公表された「自主的炭素市場グローバルダイアログ（Voluntary Carbon Markets Global Dialogue: VCMGD）」報告書をもとに、パリ協定と自主的な炭素市場（VCM）のシステムをどのように利用すれば、最も脆弱な国々に利益をもたらすことができるか、について議論が行われた。2 年前には低品質の炭素クレジットに関する情報はほとんどなかったが、現在は炭素市場のシステム自体へ疑いの目が向けられている。小国や後発展途上国に利益をもたらすような炭素市場システムを作るには、各国政府が戦略的に VCM に関与すると共に、プロジェクト開発者やクレジットプロバイダーがより質の高いクレジット、すなわち「先住民や地域コミュニティに直接的な利益をもたらし、生物多様性保全等に貢献する、炭素以外の複数の利益を生む製品」を精査し、高価格で市場に流通させることが必要である。
  ※本ウェビナーの録画は UNFCCC の Youtube チャンネルから閲覧可能。
  ※炭素市場エクスプレスに、「自主的炭素市場グローバルダイアログ（Voluntary Carbon Markets Global Dialogue: VCMGD）」報告書が発表された時に開催された関連ウェビナーの傍聴メモ(日本語)を掲載している。

- **開催挨拶 [Gilles Dufrasne, Carbon Market Watch]**

✓ 炭素市場は、気候変動資金を途上国に誘導するためのソリューションとしてよく宣伝されているが、気候変動対策の約束を実現できていない。また、場合によっては、地域社会に悪影響を及ぼすこともある。

✓ 京都議定書の下でのこれまでのシステムでは、プロジェクトの分配方法が非常に不平等で、例えばアフリカ大陸ではほとんどプロジェクトが行われていなかった。このサイドイベントでは、これらのシステムを途上国でも機能させるにはどうしたらよいかを議論し、交流することを目的とする。

■ **発表：Voluntary Carbon Market - Global Dialogue [Robi Redda (Director, SouthSouthNorth)]**

✓ 「The Voluntary Carbon Markets (VCM) Global Dialogue（自主的な炭素市場のグローバル対話）」の最終報告書を2021年10月に発表した。このイニシアチブはClimate Focusが主導し、「The Institute, the Indonesia Research Institute for Decarbonization（IRID）」、「SouthSouthNorth（SSN）」、「Transformer」、と炭素市場の専門家らが、VERRA のサポートの下で、対話を行った。

✓ Global Dialogue では、VCM の供給側から市場の最適な設計および展開する方法について議論した。これにより、炭素クレジット購入者の視点から炭素市場の健全性を検討し、補完的なイニシアチブを強化することが目的である。

✓ Global Dialogue は、アジア、太平洋、アフリカ、ラテンアメリカ、カリブ海地域の幅広いステークホルダーの参加を得て、いくつかのステップを経て開催された。

✓ Global Dialogue では、途上国の政府、民間企業、市民社会を巻き込みながら、VCM がパリ協定の目標達成にどのように貢献できるのか、各国の気候変動対策計画や地域の優先事項を支援し、持続可能な開発を促進し、より多くの民間投資を引き出すことができるのかを明らかにした。

✓ 全体的な提言: ①政府はどのようにして VCM に関与し、追加の緩和の可能性を活用することができるか、②パリ協定の下で政府・企業・GHG クレジット事業明確で透明性の高い炭素会計をどのように促進できるか、③炭素クレジットの買い手と投資者は SDGs 達成への貢献度の高い事業に対してどのように資金を供給できるか、④VCM は先住民と地域住民の権利をどのように拡張し、保障にできるか、⑤政府・企業・VCM はどのように協力と調整を促進することができるか。

✓ 各国政府は VCM には直接的に関与していないため、国内で行われている事業を知らない場合も多い。VCM が地方政府やコミュニティに利益をもたらすことを評価している一方で、VCM のリスクと機会についての認識はまちまちで、生成されたクレジットがどのようなものかということに懸念を示す政府が多かった。

✓ 一部の国は、プロジェクトの機会を積極的に見つけ、民間投資や CDM が提供するインフラを利用してプロジェクトを実行していた。全体的に見て、政府が重要だと感じているプロジェクトの種類は、コミュニティや自然をベースにしたソリューション。特に環境面および社会的利益の観点から、持続可能な農業の実践に VCM が焦点を当てることが重要だと感じている。

✓ 全体的な見解としては、VCM は南半球での民間セクターの資金調達を促進することに成功しているが、その潜在能力はまだ十分発揮されていない。

✓ 各国政府が①様々な VCM に戦略的に関与する。②VCM のための投資の機会を捉え、VCM が価値を付加できる場所の優先順位付けを行い、官民パートナーシップを構築することが重要。③多くの国で採用されている環境社会パフォーマンス基準を遵守するよう、国内の重要な法的・政策的枠組みを整備することは、利益や支払いの分配につながる。

■ **[Kishan Kumarsingh (Head of the Multilateral Environmental Agreements Units, Trinidad and Tobago)]**

- ✓ VCM は途上国を含め多くの国の NDC の実施に役立つと考えられており、環境保全を促進する強力な炭素市場のルールがあれば、市場での価値は認められるだろう。
- ✓ 以前の炭素市場は一部の国に支配されていて、小さな国が市場にアクセスするのは困難だった。
- ✓ 小国にとって、拡張性と実現可能性は依然として大きな問題。小国が市場にアクセスできるように、プロジェクトをまとめたり、グループ化する試みがなされている。
- ✓ 信頼性の高い複数の組織から、小島が抱える民間セクターの障壁に関する課題についての研究結果が報告されている。炭素市場を設立する際には、このような障壁に対処して、小国が確実に参加できるようにして欲しい。

■ **[Mahesh Pandya, Director, Paryavaran Mitra, インド Gujarat 州]**

- ✓ 炭素市場は産業界では成功しているが、廃棄物管理に活用するには、私の州では大きな失敗をしている。途上国では廃棄物管理が大きな問題であり、廃棄物管理に炭素市場を利用できるようにすべき。
- ✓ 我が州では排出権取引が導入されており、州内で炭素クレジットを発行しているが、透明性がないため、産業界と政府だけが利益を得ている。
- ✓ 我が州では、ある重要な廃棄物管理プロジェクトが、炭素クレジットを得られなかったために中止された。世銀が 159 の町の廃棄物処理のために多額の資金をインド政府に提供したが、19 の町だけが廃棄物管理システムに参加している。Gujarat 州も都市開発公社を設立し資金を受け取ったが、このプロジェクトは実現しなかった。
- ✓ インドでは炭素クレジットのプロジェクトをいくつかモニターしたが、詐欺まがいのことが行われており、私は UNFCCC 事務局に何度も訴えた。
- ✓ 先進国は基準を達成しなければならないと言っているが、彼らは廃棄物を管理することに興味がない。貧しい人々にとって、廃棄物管理は人権問題である。

■ **[Eftimiya Salo, Sustainability Specialist, Compensate]**

- ✓ Compensate は、企業や個人に高品質のカーボン・キャピタル・プロジェクトへのアクセスを提供する非営利団体。我々はオフセットプロバイダーだが、市場の他のプロバイダーとは差別化されている。
- ✓ ①当社には科学的諮問委員会があり、炭素回収方法や高品質な製品に関して、我々を正しい方向に導いている。②我々は独自の炭素クレジット評価基準を開発し、それに基づいて炭素プロジェクトを評価している。これにより、少数のプロジェクトしか認められない、非常に選択的な炭素回収ポートフォリオが実現している。③「過剰補償」：当社は一般的に考えられているように、1 単位の炭素クレジットが 1 トンの CO2 に相当するとは考えていない。実際に必要とする以上の炭素クレジットを購入している。④我々は完全な透明性をもって非営利活動を行っている。ウェブサイトで財務状況を公開しており、どのようにお金を使い、どのような製品を購入し、いくら支払っているのかを見ることができる。
- ✓ 当社の基準は、気候変動への完全性だけでなく、生物多様性や地域社会の福祉もカバーしているが、我々が調査したプロジェクトの 90%はこの基準に達していない。

- ✓ 今後は森林保全プロジェクトに注力しようと考えている。このようなプロジェクトのメリットは、①生物多様性のホットスポットでもあり、炭素密度の高い既存の森林を保護することにつながる。②社会経済的な問題の解決につながる。なぜなら、地元のコミュニティには現金収入の代替手段がなく、わずかな収入のために森林伐採を行っているから。さらに森林保全のプロジェクトは市場での価格がかなり低く設定されているので、ベネフィットや社会的影響を考慮した上で、価格を高く設定し、品質と価格のバランスが取れるようにしたい。
- ✓ 森林保全プロジェクトにはデメリットもある。①ベースラインを非常に低く設定することで、気候変動の影響を過大評価している。これは、現実的なベースラインを設定することで簡単に解決できる。②政治的リスクはクレジットの永続性と直接関係しており、途上国では政府が不安定である。例えば、保護されていた森林が、政府の方針変更によって、30 年後には保護されないかもしれない。③地域紛争や人権侵害の可能性。政府はまず、森林を不法占拠している人々を排除しようとするが、そのような人々は最も脆弱で、森林に依存した生活をしている。
- ✓ 現在の多くの森林由来の炭素クレジットは、単一樹種の植林によるものだが、生物多様性と地元コミュニティに多大な悪影響を及ぼす可能性がある。具体的には地元の人々が雇用市場から排除され、企業が非常に安い価格で土地を購入し（土地収奪）、食料価格の高騰につながる。
- ✓ 植林にばかり関心が集まっているが、自然に基づく解決策はもっと先に進むことができる。当社は次の段階として、コミュニティの幸福と人権侵害の防止に取り組むことを計画している。先住民や地域のコミュニティを巻き込んで、プロジェクトへの同意を得て、彼らが本当に利益を得られるようにしなければならない。そして最終段階では、ほとんどのプロジェクトで不足している生物多様性に対する測定可能な利益を提供したい。
- ✓ 売り手に対しては、まず避けられない排出を回避し、削減し、そして補償することを勧めている。また、プロジェクト開発者に対しては、気候変動の影響を見積もる際には保守的になり、量よりも質を重視するようにアドバイスしている。過剰に見積もってより多くの量を販売し、より多くの収益を得ようとするインセンティブがある一方で、非常に高い品質で少ない量を削減すれば、プレミアム価格を得ることができる。また炭素が正しく計算されていれば、炭素クレジットを売らなくても、これらのプロジェクトを支援することができる。

■ 質疑応答

Q.1（会場からの質問）：私はエネルギー関連のプロジェクトを開発し、教育やプロジェクトで炭素クレジットを使用している。質問は①炭素市場の基準に関わったことがあるか、②基準への推奨事項は何か。

A.1（Eftimiya Salo）：当社は自主的な炭素市場の運営に関するタスクフォースの協議にも参加している。日常的に Gold Standard や VERRA と議論し、私たちが発見したことや問題点を伝えている。自主的な炭素市場の何が問題なのかは Global Dialogue で提案し、基準を改善するための提言も行っている。2 年前にこの報告書を作り始めたときは、低品質の炭素クレジットに関する情報はほとんどなかった。今日、世界最大のメディアが、炭素市場システム全体がいかに信用できないか、いかに改革が必要かという記事を次々と掲載しており、非常に喜ばしい状況だと認識している。

Q.2（会場からの質問）：どうすればクレジットの質をより良くコントロールできるのか？
A.2（Robi Redda）：うまくコントロールする方法については、私には答えられないが、対話のためのプラットフォームを作り、関係者を集めることは、この問題を解明するために行った作業の中でも、重要なステップだったと思う。

Q.3（会場からの質問、Martin form PRI）：古い森林はより多くの炭素を吸収するのか？それとも再植林された森林の方が、大気中から炭素を吸収するのにより効果的なのか？
A.3（Eftimiya Salo）：昨今の市場では、炭素除去に対する需要が非常に高まっているため、森林再生（再植林）が優先されているが、最善の方法ではない。自然の熱帯雨林は 1 ヘクタールあたり 150 トンの炭素を蓄えているが、熱帯のプランテーション林は 1 ヘクタールあたり年間 7 ポンドの炭素しか蓄えないので、同じ量の炭素を蓄積するには、21 倍の土地が必要。また、現在市場に出回っている森林再生プロジェクトの多くは商業用の木材プランテーションであり、プランテーションではない森林再生プロジェクトは非常に稀。自然の熱帯林は、炭素のためだけでなく、生物多様性のホットスポットであり、地域社会の福利厚生を向上させるためにも非常に重要。一方、森林再生には、炭素の要素しかない。

作成：久世　濃子